

2024年度年末手当妥結にあたってのバス東北本部見解

J R東労組バス東北本部は、2024年10月22日に申3号「2024年度年末手当に関する申し入れ」を行い、各職場で深刻な要員不足が続いている中で、これ以上の人材流出を防ぎ、明るい職場をつくり出すべく組合員と議論を重ねてきました。

ジェイアールバス東北会社の2024年度上期決算は、コロナ禍以前にこそ及ばないものの3期連続の営業黒字となりました。会社は、前年度との比較で収入以上に費用が増加する「増収減益」決算で計画も下回っているとしていますが、収入の確保を支えてきたのは厳しい要員体制の中でも組合員・社員が会社施策に向き合い、休日出勤や助勤・転勤など最大限協力し奮闘してきたことに他なりません。

これまで受託事業所を中心に人材流出が止まらず、各箇所において要員不足が一向に解消されないことで過去最高の働き度となっているという労働実感や24春闘でのベースアップや夏季手当で過去最高の支給率となったものの、物価上昇に賃金が追い付いていない現実から子育て世代を中心に生活が苦しいといった生活実感。そして何よりも会社の将来のために人材流出を防がなければならないという危機感を訴える声が多く寄せられました。これらの切実な想いを計3回の交渉で会社にぶつけて、会社経営を支えて日々奮闘している組合員・社員の努力に報いるとともに、21春闘での定期昇給カットやコロナ禍での年収減により、多くの仲間を失った悔しさや苦しさの中でも残って良かったと組合員・社員が思えるように満額回答を強く求めてきました。

そして11月19日の第3回交渉において、バス社員・エルダー社員が基準内賃金の2.50倍プラス2万円、契約社員が基本日額の2.3日分の2.10倍プラス2万円という回答が示されました。年末手当としては過去最高の支給率となりましたが、職場から寄せられた労働実感や生活実感と乖離していることから、回答を持ち帰り組織内で議論することとしました。

11月21日に分会代表者会議を開催し、回答を受けての組合員・社員の声を集約し議論を行い、まず増収減益でも黒字となったのは組合員・社員の努力であることを会社が認めた上で、年末手当としては過去最高の支給率を引き出したこと。また、同業他社の中では異例の年間5.35ヶ月相当の支給率となったことは繰り返し組合員・社員の生の声を訴えたこれまでのたたかひの成果であること。そして、職場からのたたかひが魅力ある職場づくりに繋がることから妥結の判断としました。その一方で要求に届いていない現実を振り返れば、職場の声を最大限まで高めることが出来ていないことや、人材流出を食い止めることが職場を守ることでありという危機感が足りないなどの課題も残りました。コロナ禍での会社の経営環境が私たちの生活に大きな影響を及ぼしたことを忘れずに、更なる労働条件向上と25春闘勝利に向けて、最大の課題である組織拡大を実現することで職場の声を最大限に高めていかなければなりません。バス業界全体の働き手不足が問題となっておりますが、人材確保・定着のためにはまず退職者を止めることが必要不可欠です。

これからも組合員・社員の声で「安全・健康・ゆとり」を基軸とし、「人材流出を防ぎ、雇用と職場を守り抜くためのバス東北本部緊急提言」を実践することで、魅力ある職場をつくり出していきましょう！

最後に、これまで交渉団を支えて頂いたJ R東労組各機関の仲間と家族に感謝するとともに、今後も共にたたかうことを約束し見解とします。

2024年11月26日
東日本旅客鉄道労働組合
ジェイアールバス東北本部